

平成30年度
事業計画書

平成30年3月

一般財団法人 西日本産業衛生会

平成 30 年度事業計画書

<はじめに>

平成 29 年度は、年度初めより緩やかな回復基調が続く中、政府は東日本大震災からの復興・創生及び平成 28 年熊本地震からの復旧・復興に向けて取り組むとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、経済再生と財政健全化の双方を同時に実現すべく各種政策を実行してきました。その結果として、九州北部豪雨などの大きな自然災害はあったものの、好調な企業収益を背景にして回復基調が維持されています。

今後の先行きについては、雇用・所得環境の改善が続く中で各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調が続くものと期待されます。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響、緊迫度が増す北朝鮮情勢に留意する必要があり、実体経済の下振れリスクが顕在化する可能性も残っており、景況感については不透明と言わざるを得ません。

このような中で当財団は、8月に施設間相互読影システム (NIIS) の運用開始、環境システムの全面更新、遅れていた新健診システムの全面運用開始と積極的に投資を行ってまいりました。また、年度末にはグループ間の事業再編の一環として若杉病院を北九州病院へ譲渡いたしました。業績については、若杉病院の病床転換のための人材確保による人件費・システム投資による経費の増加等により、前年対比では増収・減益が見込まれています。

30 年度については、システム投資の償却がフルに計上されることとなります。また、若杉病院の譲渡による利益面での影響を、健診業務に更に特化することにより各施設が今まで以上に安定した収益を確保することが不可欠であります。

少子高齢化に伴う労働人口の減少が予想される中、今後は当財団にとっても厳しい事業環境が訪れるものと思われれます。これからも持続的成長を続けるためには、職員一人一人が変化を敏感に捉え、市場環境の変化に柔軟に対応し、常に向上心をもって取り組む必要があります。

漫然と現状にとらわれることなく、増収・増益対策については最大限の知恵を絞るとともに、業務フローの改善や、無駄な作業の排除などによって労働生産性（パーヘッド）を高め、強靱かつ柔軟な組織体制を構築いたします。

30 年度を迎えるに当たり、下記の基本方針に沿って事業の遂行に努めます。

<基本方針>

「信頼・協調・貢献」の基本理念のもと、「疾病予防、健康維持・増進を通じて、勤労者とその家族並びに地域住民の健康づくりに資することにより、健康で活力のある社会の実現に貢献する」ことを当財団の目的として掲げ、その実現に向けていかなる環境の変化にも対応できる強靱かつ柔軟な組織・体制の構築を目指します。

<重点推進事項>

1. 業務の合理化・効率化による「働き方改革」の推進と、「労働生産性」の向上
合理化企画チームを発足し、施設現場とコミュニケーションを密に取りながら、本源的な合理化・効率化を図ります。
2. 財団の将来を担う人材の計画的採用と、教育的ローテーションの実施
定期採用及び中途採用にも積極的に取り組み、将来を担う人材の確保に努め、施設内ジョブローテーション及び異動によるスキルアップ等ばかり人材育成に傾注します。
3. 健診・環境測定・医療すべてに亘る精度の維持向上と標準化
環境事業と健診事業・産業保健事業の連携推進を図り、競合他社に優位性を持って営業展開を図ります。また、施設間の標準化を推進します。
4. コンプライアンスの徹底
お客様の信頼を得るための不断の努力と遵法精神の構築をします。
5. 「収益事業」における安定した収益力の確保と新たな収益源の検討
収益力向上に繋がる積極的設備投資を検討します。規制概念にとらわれない取り組みとコスト削減にも取り組みます。
6. 「公益事業」を当財団成長のための先行投資と位置付け、有意義な情報発信等に
取り組む
「あんしん通信」のリニューアルにより、有益性の高い情報発信を行うとともに、積極活用します。

<各事業における具体的推進計画>

(計数計画については別表(5~7頁)の通りです)

(公益事業)

(1) 産業保健事業

全国有数の活動実績を持つ産業保健事業は当財団の特色であり、今後とも当財団「公益事業」の中核を成す事業として推進してまいります。

産業保健を取り巻く環境は他の事業と同様、常に変化しております。健診では単に受診するのみでなく健診を受けた後の保健指導を強化する流れがあります。事業場様、健康保険組合様は近年データヘルス計画に取り組みつつ、より健康増進・疾病予防に繋がる健診のあり方や保健指導、特定保健指導の見直しを考えられています。

また、過重労働・メンタルヘルスの対応も年々増えています。平成26年の労働安全衛生法の改正に伴い、ストレスチェック制度が27年12月より施行され、28年6月には化学物質のリスクアセスメントが義務化されました。

これらの変化に対応するためには人財の確保と一層の教育が欠かせません。

特に産業医は全国的な医師不足で困難な状況ではありますが確保に努め、本年

度も地域の皆様の職場環境向上のため、可能な限り貢献してまいります。

(2) 健康情報発信 他

- ① 23年度より創刊し、当財団の健康情報誌と位置づけている「あんしん通信」は、30年度より紙面を刷新するとともにタイトルも「まもる」に変更し、北九州版・福岡版・大分版に分けて、年間26万部発刊します。より充実した内容で有用な健康情報を提供し健康管理の高揚に努めます。
- ② 健康および労働環境に関するセミナー等を通じて、周辺企業および住民の健康に関する普及啓発活動を行い、広く健診の受診を勧奨してまいります。
- ③ 健康診断結果を集計し、分析・発表することにより、広く健康管理の重要性を訴えてまいります。「事業年報」の刊行を継続するとともに、更なる内容の充実を目指してまいります。

(収益事業)

(1) 健康診断

当財団の基幹事業であり、今年度も最重要事項として計画の遂行に取り組みます。経済環境が不透明な中、受診者の増加は限定的であろうと推察されますが、当財団としては、引き続き受診率の向上を目指しながら、皆様に満足頂ける質の高いサービスを提供してまいります。

①一般健診及び特殊健診

法的に義務付けられている基本的な健診である一般健診（定期健康診断・雇い入れ時健康診断）および特殊健診については、引き続き地域に情報を発信しながら受診率向上に取り組みます。

②協会けんぽ健診及び生活習慣病健診

協会けんぽ健診については、年々着実に受診者数は増加しています。引き続き当財団施設間で協調しながら事業者の方々の利便性を高め、受診率向上に貢献いたします。

生活習慣病健診については、その重要性についての啓蒙を続けながら、健診精度の向上と、有効な指導への要請に応えるべく体制を整備してまいります。

特に、特定健診の開始により保険者に求められている受診率の向上には配偶者健診の充実が欠かせませんが、当財団では地域の健康保険組合の皆様とともに20年以上に亘り独自の仕組みで主婦健診（ヘルスチェックママ）に取り組んでまいりました。そのノウハウを発展継承して地域の健康増進に努めつつ、新健診制度の確立にお役に立つよう尽力いたします。

③人間ドック

人間ドックは主として施設での外来健診となります。全施設が画像系健

診機器のデジタル化を終えておりますが、更に設備・機器のバージョンアップに努め、ご契約頂いている各企業・団体・健康保険組合・共済組合様、それぞれのニーズに沿った精度の高い健診を提供できるよう努めてまいります。

④PET健診

北九州エリア最初のPET健診施設としてPET健診センターを開設以来15期目となりますが、地域での認知度も向上し連携医療機関様からのご依頼である保険診療を中心に需要は安定しております。最新のPET-CT機による「がん」の早期発見に努め、より精度の高い健診を目指します。今後も地域社会から「がん」を撲滅するために貢献すべく鋭意努力を継続いたします。

(2) 環境測定

職場の作業環境の健全性維持は、勤労者の健康保持に欠くことのできないものであり、労働行政および労働衛生関係団体と連携を図りながら、職場環境の改善と維持に貢献できるよう取り組んでおります。平成21年度からは北九州と大分に独立していた環境測定部門の一体運営を行っており、両施設の強みを活かしながら全国でもトップクラスとの評価を受けている高い測定・分析精度を維持しつつ、職員の更なるスキルアップ、分析機器等の拡充を計画的に進めてまいります。

また、当財団の環境測定部門は単に測定・分析業務にとどまらず、永年の業務遂行の過程でスキルを蓄積してきた労働衛生コンサルタント業務も行っており、作業環境管理・作業管理・健康管理業務全般をご支援できるエキスパートとして地域社会への貢献を目指しております。

平成24年に全国で6番目、大阪以西では初の「作業環境測定士登録講習機関」の登録を取得し、第1種及び第2種作業環境測定士講習を実施するとともに、有機溶剤・特定化学物質等の「作業主任者技能講習」の推進を図ることにより、西日本地区の労働衛生関係スタッフのレベルアップに寄与してまいります。

以上

1.事業計画
(公益事業)

区 分		平成29年度実績見込(注1)	平成30年度計画	備考
(1)産業保健事業	実施事業場	658	660	
(2)健康情報発信	健康情報誌	260,000	260,000	発行部数

(収益事業)

区 分		平成29年度実績見込(注1)		平成30年度計画		備考
(1)健康診断	一 般 健 診	180,761	39.6%	196,270	41.9%	人員
	協会けんぽ(旧政管)健診	90,496	19.8%	83,660	17.9%	〃
	生活習慣病健診	63,269	13.9%	63,030	13.5%	〃
	ド ッ ク 健 診	29,025	6.4%	30,460	6.5%	〃
	P E T 健 診	4,338	1.0%	4,290	0.9%	〃
	付加健診(注)	(216,198)		(230,020)		件数
	特 定 健 診	19,280	4.2%	18,010	3.8%	人員
	再検査・二次検査	3,110	0.7%	2,980	0.6%	〃
	特 殊 健 診	66,113	14.5%	69,570	14.9%	〃
	外 来 診 療 (注)	(878)		(880)		〃
合 計		456,392	100%	468,270	100%	延べ受診人員(注2)
(2)環境測定	作 業 環 境	9,463	24.0%	10,570	27.2%	件数
	煙 道 ガ ス	326	0.8%	370	1.0%	〃
	石 綿	2,883	7.3%	2,310	5.9%	〃
	そ の 他	26,829	67.9%	25,610	65.9%	〃
合 計		39,501	100%	38,860	100%	件数
(3)病院	入 院	104,954		(注3) 0		延べ人員
	外 来	9,550		(注3) 0		〃

(注1):平成29年度実績見込は、平成30年1月迄の実績に基づき推計により算出。

(注2):健康診断合計には、()内数値(付加健診及び外来診療)を除き、一般健診については有害業務従事者の重複健診、協会健診については付加健診・がん健診ほかの重複受診者を含む延べ人員を表示。

(注3):病院事業は、平成30年3月31日付けで社会医療法人北九州病院へ譲渡

2.収益事業内訳

(1)健康診断

区分	科目名	平成29年度実績見込	平成30年度計画	備考
一般健診	定期A	69,465	98,390	
	定期B	59,886	44,660	
	定期C	42,281	43,580	
	雇入時健診	9,129	9,640	
	小計(一般健診)	180,761	196,270	
協会けんぽ(旧)	一般健診	66,566	68,940	
	付加健診	1,652	1,750	
	乳がん	5,012	5,230	
	子宮がん	6,800	7,220	
	その他(特定健診等を含む)	0	0	
	肝炎ウイルス検査	10,466	520	
小計(協会けんぽ健診)	90,496	83,660		
生活習慣病健診	共済組合	7,880	7,890	
	指定健診	49,940	49,290	
	ヘルスチェックママ	5,449	5,850	
	小計(生活習慣病健診)	63,269	63,030	
ドック健診	日帰り人間ドック	26,509	27,980	
	日帰り人間ドック(配偶者)	1,791	1,710	
	一泊ドック	725	770	
	小計(ドック健診)	29,025	30,460	
PET健診	PET健診	4,338	4,290	
	小計(PET健診)	4,338	4,290	
付加検査	付加検査(オプション)	216,198	230,020	
	小計(付加検査)	216,198	230,020	
特定健診	特定健診	19,280	18,010	
	小計(特定健診)	19,280	18,010	
再検・二次検査	再検査	2,196	2,160	
	胃・十二指腸	30	30	
	大腸検査	3	0	
	腎機能	194	220	
	肝機能	109	100	
	耐糖検査	317	300	
	CT検査	24	30	
	その他二次検査	237	140	
	小計(再検・二次検査)	3,110	2,980	
特殊健診	じん肺	7,971	8,870	
	歯牙	889	720	
	鉛	753	760	
	有機溶剤	13,459	13,020	
	コールタール	1,503	1,630	
	紫赤外線	3,888	4,470	
	騒音	10,934	11,210	
	振動	2,390	3,490	
	VDT	4,648	4,550	
	石綿	2,344	2,340	
	その他特殊	16,883	18,100	
	特殊二次	75	40	
	管理手帳	376	370	
小計(特殊健診)	66,113	69,570		
外来	外来	878	880	
	小計(外来)	878	880	

(2) 環境測定

科 目		平成29年度実績見込	平成30年度計画	備考
作業環境	粉 じ ん	1,767	2,110	
	特定化学物質	2,853	2,720	
	金 属	408	540	
	有機溶剤	2,675	3,020	
	騒 音	704	910	
	照 度	2	10	
	事務所管理	18	20	
	局所排気定期点検	664	800	
	作業環境診断	23	10	
	そ の 他	349	430	
小 計	9,463	10,570		
煙道排ガス	煤 じ ん	127	150	
	硫黄酸化物	62	70	
	窒素酸化物	123	140	
	そ の 他	14	10	
小 計	326	370		
その他	排 水	463	400	
	飲料水	126	140	
	産業廃棄物	542	610	
	そ の 他	1,947	1,630	
	(特検)鉛	20	30	
	(特検)有機溶剤	23,731	22,800	
	石 綿	2,883	2,310	
小 計	29,712	27,920		
合 計	39,501	38,860		

(3) 病院

項 目	平成29年度実績見込	平成30年度計画	備考
入 院	104,954	0	
外 来	9,550	0	
合 計	114,504	0	

(注1): 病院事業は、平成30年3月31日付けで社会医療法人北九州病院へ譲渡